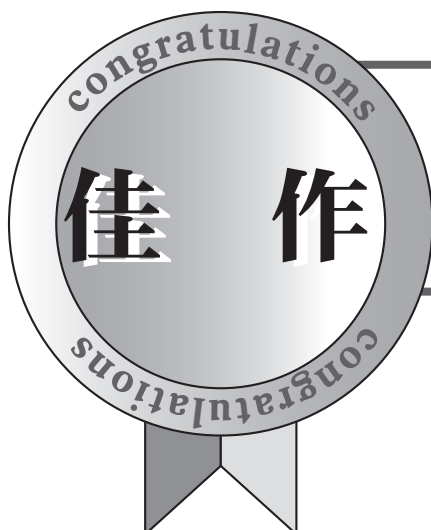




街の小さな思いやり

大阪府立工芸高等学校 3年

岸本 知与
きしもと ちよ

私が今回調査した場所は、あべのキューズモール周辺です。普段、学校が近くよく行く場所であり、沢山の人々が使う場所なので、どのような工夫がされているのか気になり調べました。

最初に目に入ってきたのはスロープです。あべのキューズモールから阿倍野駅へ行く間には階段があります。しかし、車いすの方やベビーカーを使っている人々は階段を使うことが難しいため、階段横にはスロープが設置されていました。また両端には手すりが付いており、バランスを崩し転倒するなどの事故を防ぐ工夫もされていました。スロープをつけるだけでなく、上る時のことも考えられていて、とてもいいと思いました(写真1)。

阿倍野駅へ向かう間にはさらに横断歩道があります。歩道は事故を防ぐために1段高くなっている事が多いです。しかし1段高いままだと、歩道と道路を上り下りする際に、つまずいてしまったり段差があることで車いすの方などは降りることが難しくなってしまいます。しかし、あべのキューズモール前にある横断歩道の歩道と道路の境界線では、横断歩道のある場所のみ少し傾斜をつけています。そのためつまずくことも、車いすの方が

降りることが出来ずに遠回りをすることも無くなり利用しやすいと思いました(写真2)。

横断歩道の前やスロープの前、歩道など色々な場所に点字ブロックがありました。目が不自由な方でも安心して歩けるようになっています。目が不自由だと少しの段差なども危険です。また天王寺には車が沢山走っています。しかし、点字ブロックがあることで間違えて車道に入ってしまうことがなくなるので、とても安心しました(写真1・2・3)。

歩道が狭いところでは、沢山の人々が使う場所だとすれ違う際にぶつかってしまい怪我を負ってしまうリスクがあります。ですが天王寺の歩道ではほぼ全ての歩道が広く作られており、沢山の人々が歩いてもぶつからないように作られていました(写真3)。

今回調査をしてみて、普段何気なく使っている道にも沢山の工夫がされていて小さな思いやりでできているんだと気づくことができました。調べていなかったらスロープに手すりがついている理由なども知らなかったと思うので、知ることが出来てよかったです。



写真1



写真2



写真3